

大学における 英語基礎学力保障のための 音読指導

(コンピュータ・ネットワークを利用した指導実践事例)



鈴木政浩 (西武文理大学)

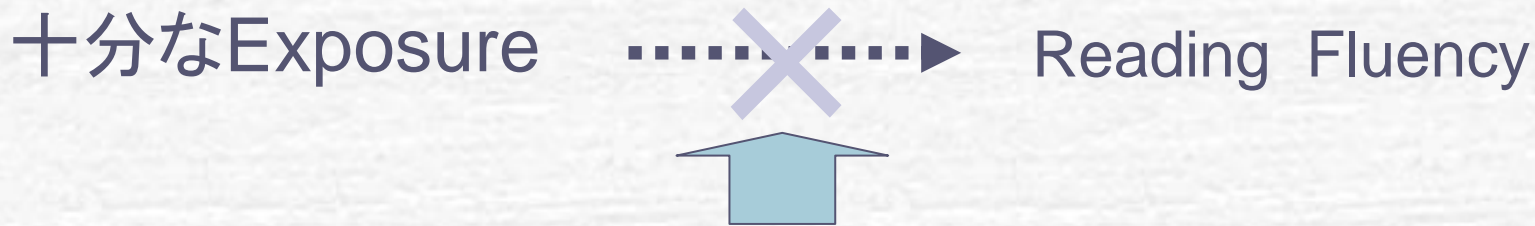
阿久津仁史 (文京区立第八中学教諭、聖学院大学兼任講師)

日本リメディアル教育学会

(The Japan Association for Developmental Education)

第4回全国大会 関東学院大学 2008年8月

問題の所在・・・学生の学力実態



教師の説明・・・・・・どこを説明しているのかわからない
コーラス・・・・・・聞こえた音の反復のみ

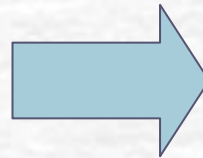
teachの過去形はtaughtですが・・・ Repeat after me!

Consider this for a moment: In all your schooling, did anyone ever teach you how to study something? Today, people are graduating school unable to read or write at a level adequate to hold a job or deal with life. It is a huge problem. It is not that subjects cannot be learned; what isn't taught is how to learn. It is the missing step in all education.

http://www.scientologyhandbook.org/SH1_1.HTM

学生の学力実態・・・実例

- オネ
- カメ
- コメ
- タケ



- one
- came
- come
- take

- ローマ字読みができるのはまだよい方である
- 中学2年生レベルの検定教科書が音読できない・・・しかし



指導前



指導後



音読指導をめぐる諸問題

- 音読指導と言えば、コーラス・リーディング
- 授業中指導しても次の授業ではもとに戻っている(隈部, 1996)
- 手間隙がかかる



音読を自分でできるようにする道はないか・・・

リーディングとリスニング

Reading while Listening (Neville & Pugh, 1972)

- モデル音声を**聞くだけ**のリーディング
 - 綿密な教師の指導と同程度の効果
 - →省力化の可能性
- 下位の児童に有意な効果認められず
 - 聞きながらの内容理解のためか？→聞きながら発音する場合はどうか？



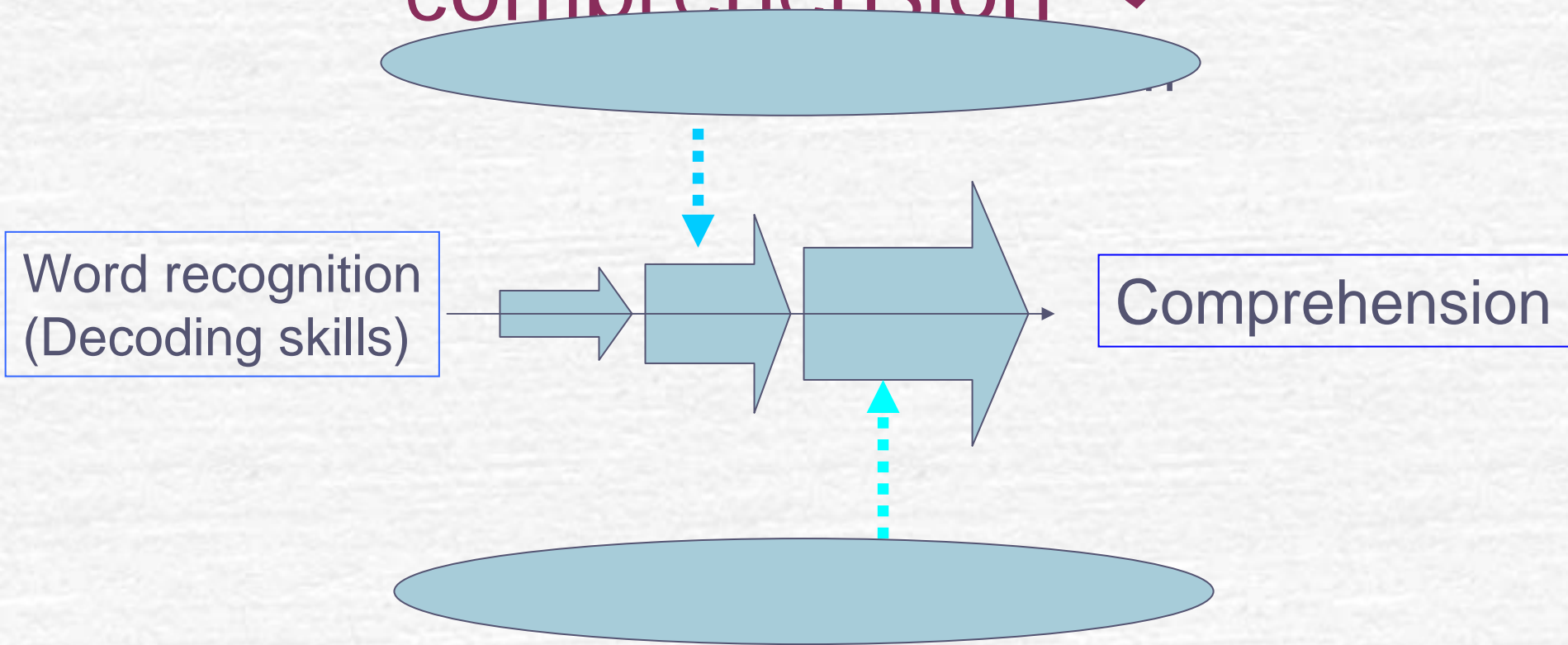
Tape-assisted reading instruction (Chomsky, 1978)

- モデル音声を**聞きながら音読** (Repeated reading)
 - Struggling readersの指導に効果

Fluency instruction

- A divide and conquer strategy
Samuels (2002)
- Not the type of instruction, but amounts of experience
Samuels, Laberge, & Bremer (1978)
- Matthew Effects in Reading
Stanovich (1986)
- Repeated reading
Stahl, Heuback, & Cramond (1997)

Word recognitionから comprehensionへ



英語基礎学力： Word recognitionを自動化し、comprehensionに集中できる力



音読によるDecoding Skillsの形成

実測・繰り返し読み

飯野・阿久津・鈴木(2007)より

テキストを5回読み1回測定
→5回繰り返し

有意な差が認められた部分

- 1回目と3回目
- 2回目と5回目
- 1回目と5回目

中学生のデータに有意差なし

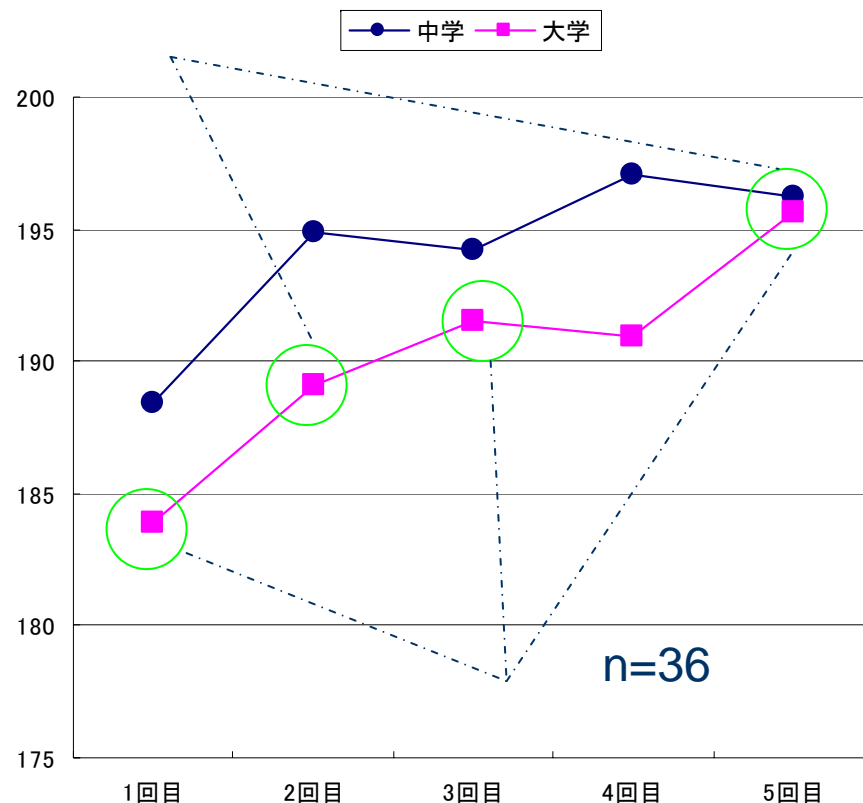


図. 1 大学生と中学生の音読スコア推移

研究の目的・・・自立した音読活動

1. 下位の学生の音読練習に適切な英文の難易度は？
2. 自立した音読練習の方法は？
3. 上位群と下位群の間に効果の違いは？
4. 音読のリスニング能力への影響は？

方法

- 対象

- 埼玉県内の大学1年生31名(男子21名、女子10名)

- 指導手順

- 学内に個人サーバーを設置
- 英検3級の問題とtranscriptと音声ファイルをアップロード
- CALL教室を使用
- 英文を各自で訳出後、モデル音声を聞きながらパラレルリーディングに取り組む
- 教師は教室を巡回しながら、モデル音声と同じ速度で学生が読めるかどうかを確認
- 教師がその場でモデル音声と同じ速度で読めることを確認したら、点検表にスタンプを押す
- Pre-testからinterim testまではリスニング問題のみ、その後は筆記テストの問題を含めた音読練習

分析方法

- Pre-(2008年4月), interim(同5月), Post-test(同7月)による効果測定
 - 英検3級リスニング問題(2006年度)第1回、第2回、第3回をそれぞれ使用
- スコアを分散分析
- 試験後にアンケート調査を実施し、その回答を分析

指導手順の流れ

鈴木(2008)b改

自己補正能力の確認

個別指導

基礎テキストの平行リーディング
単語の意味調べと訳(4月から5月末)

効果測定1

リスニング問題および筆記テストの音読
6月から7月

コンピュータソフトウェア
を使った独習

効果測定2

応用テキストのシャドーイングと録音
→ 朗読シャドーイング

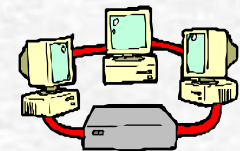
応用テキストのシャドーイングとビデオ収録
→ なりきりシャドーイング

方法

使用したネットワーク環境 とソフトウェア



- 教員研究室の個人サーバ設置
 - メインサーバーによる認証
- 学習支援用ホームページの公開
- 教材のアップロード
- 授業用ホームページによる指示



英検3級リスニング問題のページ

英検3級第1回音声ファイルとtranscript - Windows Internet Explorer

E:\研究発表08\remedia\jade08\1.htm

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

Google C 検索 検索 ブックマーク ブロック数: 2 ABC チェック 設定 Y! ページ(P) ツール(Q)

英検3級第1回音声ファイルとtranscript

[学生向け教材のページTop](#)

英検3級リスニング問題(第1回)・・・音声ファイルと英文

What time is it, Dad?

No. 1 It's three fifty-two.

When will the bus come?

No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
No.11	No.12	No.13	No.14	No.15	No.16	No.17	No.18	No.19	No.20
No.21	No.22	No.23	No.24	No.25	No.26	No.27	No.28	No.29	No.30

マイ コンピュータ 100%

結果 1 記述統計量（3回のテストの結果）

表1. Pre-test, interim test, post-testの平均値推移

	平均点	標準偏差	最低点	最高点
Pre-test	13.8	5.16	5	26
Interim test	16.9	5.97	8	28
Post-test	19.3	4.72	10	27

結果2 リスニングテスト スコアの伸び

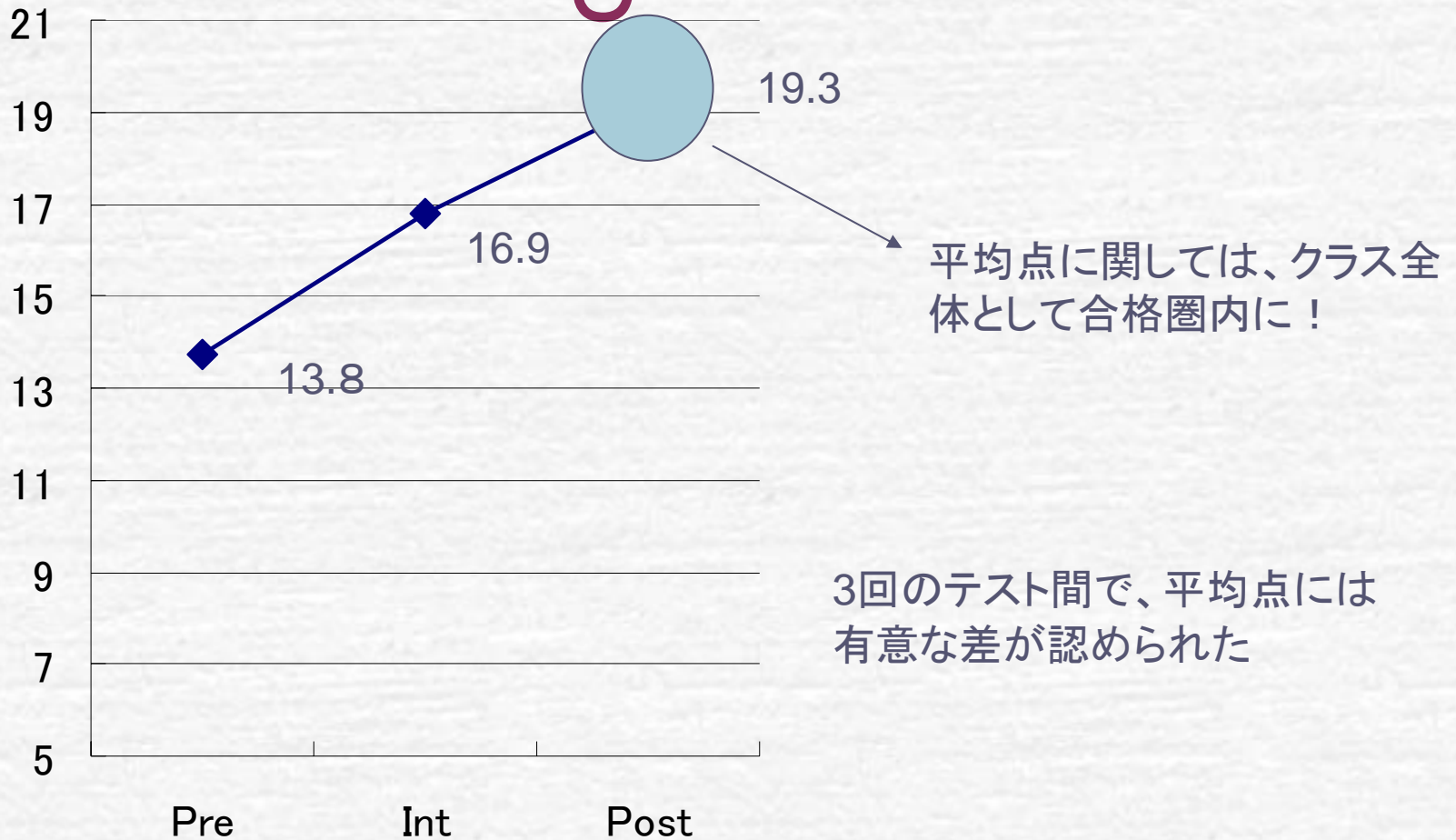


図2. リスニングテスト スコアの伸び(全体)

結果3 分布の推移

リスニングテスト分布推移

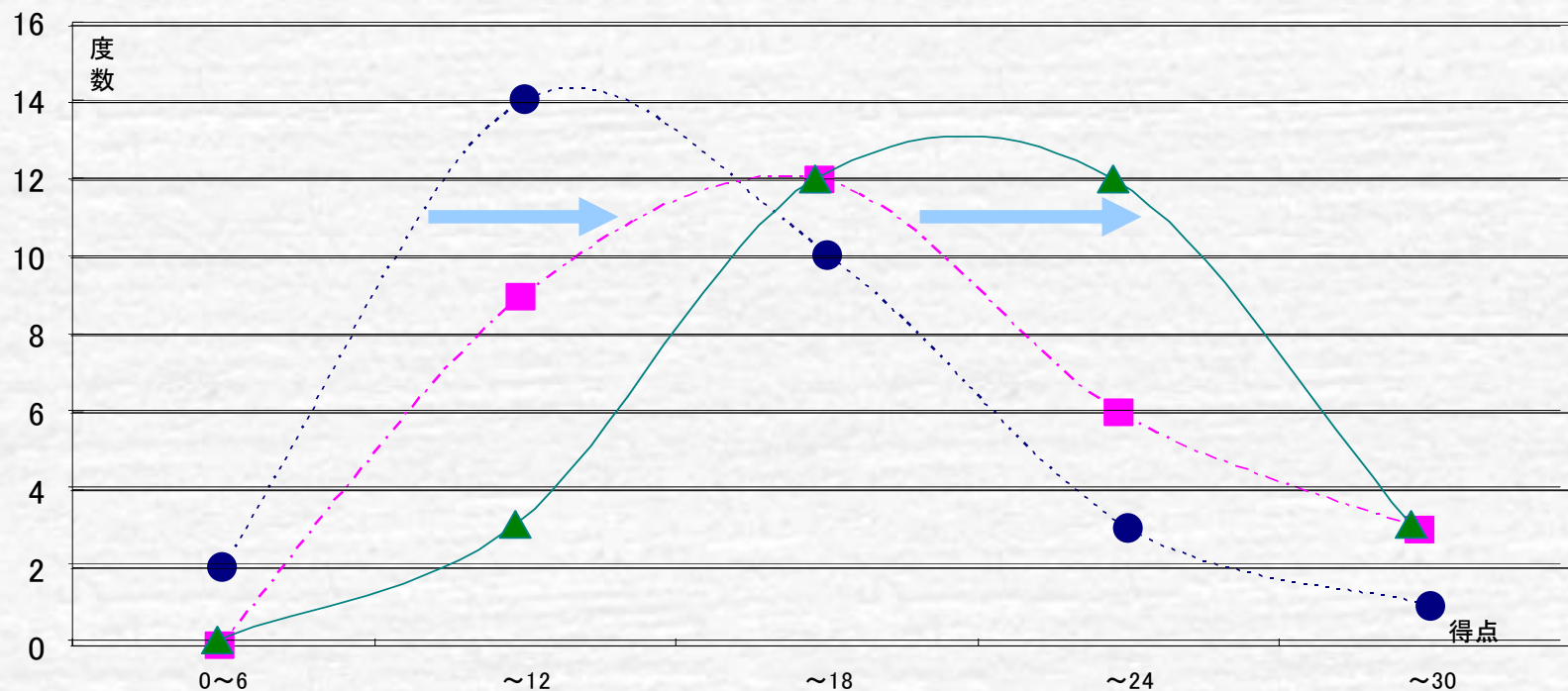


図3. リスニングテスト分布の推移

結果4 リスニングテスト スコアの伸び

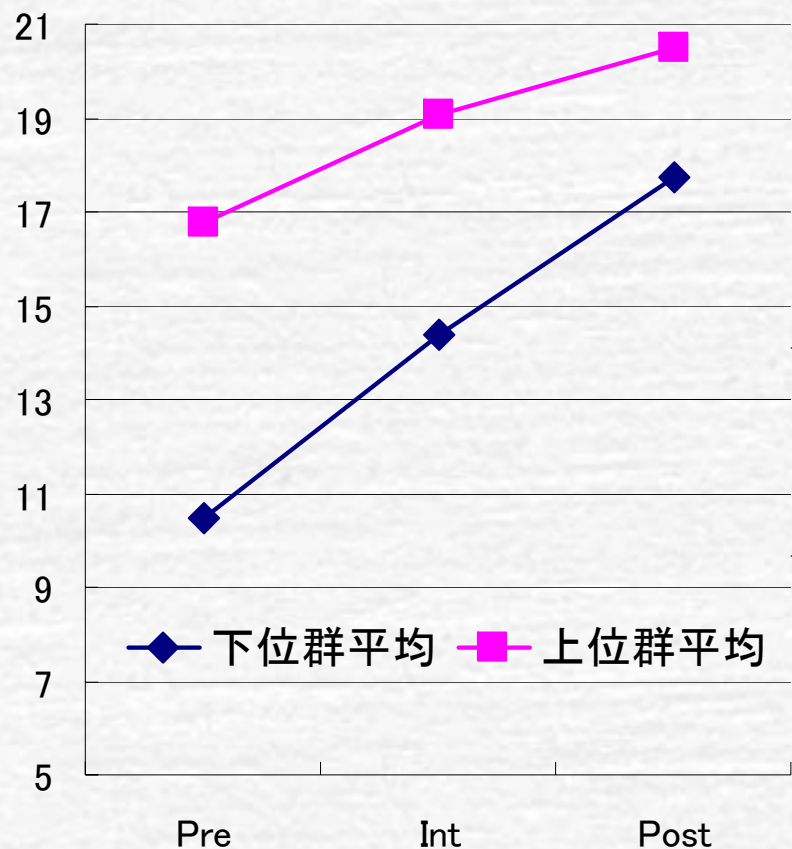


表3. 上位群・下位群平均の推移

	Pre	Int	Post
下位群	10.47	14.40	17.73
上位群	17.07	19.40	20.87

下位群のこの部分の伸びが
上位群よりも顕著に見える...

下位群が追いつきそうな勢い

図4. リスニングテスト スコアの伸び(上位群 下位群の比較)

結果5 上位群・下位群別 リスニングテストの伸び検証

2要因分散分析(混合計画)と多重比較

(Pre-testとpost-test)

→ リスニングと熟達度の交互作用有り(有意傾向)
 $F(1,28) = 3.759$ ($p = .063$)

表4. 分散分析表(被験者内対比の検定)

要因	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
L	459.27	1	459.267	38.31	0
L x 熟達度	45.067	1	45.067	3.759	0.063
誤差 (L)	335.67	28	11.988		

結果6 サンプル全体の差の検定

表5. サンプル全体の3回のテストの差

(I) Test	(J) Test	平均値の差 (I-J)	標準誤差	p 値
Pre-test	Interim test	-3.133(*)	0.967	0.009
	Post-test	-5.533(*)	0.894	0
Interim test	Pre-test	3.133(*)	0.967	0.009
	Post-test	-2.400(*)	0.914	0.041
Post-test	Pre-test	5.533(*)	0.894	0
	Interim test	2.400(*)	0.914	0.041

* $p < .05$

結果7 上位群と下位群の違い

反復測定 (ANOVA Repeated Measurement)

表. 6 音読回数間のペアごとの比較結果 (Bonferroni法)

	(I)測定	(J)測定	平均値の差 (I-J)	標準誤差	p 値
下位群	Pre	Int	-3.933(*)	1.368	0.008
		Post	-7.267(*)	1.264	0
上位群	Pre	Int	-2.333	1.368	0.099
		Post	-3.800(*)	1.264	0.006
* $p < .05$					

上位群は1回目と2回目に有意差なし、下位群は3回のテストに有意差あり

結果8 Pre-testとInterim test比較

表7. Pre-testとInterim testにおける上位群・下位群平均点の差の比較

熟達度	(I) Pre-test	(J) Interim test	平均値の差 (I-J)	標準誤差	p 値
下位群	10.47	14.40	-3.93(*)	1.345	0.007
上位群	16.75	19.06	-2.31	1.302	0.086

* $p < .05$

表8. 3回のテストの差の検定

	(I) 熟達度	(J) 熟達度	平均値の差 (I-J)	標準誤差	p 値
Pre-test	上位群	下位群	6.600(*)	1.455	0
Interim test			5.000(*)	2.009	0.019
Post-test			3.133	1.651	0.068

* $p < .05$

アンケート内容

4月の授業開始時期と比べて、もっとも自分の気持ちに近いものの番号に○を付けなさい。

(2008年7月、Post-test終了後の調査)

表9. アンケート項目

Q1. リスニングテストはやさしかった	きわめて簡単だった	5	4	3	2	1	きわめて難しかった
Q2. リスニングテストを日常的に受けたい	かなり受けてみたい	5	4	3	2	1	かなり受けたくない
Q3. リスニングテストは英語力を高めるのに役立つ	役立つと思う	5	4	3	2	1	役立たないと思う
Q4. 授業を受けてみて英語が好きになった	好きになった	5	4	3	2	1	嫌いになった
Q5. 音声を聞いて音読できるようになった	かなりそう思う	5	4	3	2	1	かなりそう思わない
Q6. 英単語の発音がしっかりできるようになった	かなりそう思う	5	4	3	2	1	かなりそう思わない
Q7. 英文の音読がしっかりできるようになった	かなりそう思う	5	4	3	2	1	かなりそう思わない
Q8. 音読が重要だと感じるようになった	かなりそう思う	5	4	3	2	1	かなりそう思わない
Q9. 音読が好きになった	かなりそう思う	5	4	3	2	1	かなりそう思わない
Q10. リスニング力が付いた	かなりそう思う	5	4	3	2	1	かなりそう思わない
Q11. 英語を読んだり聞いたりすることに対する抵抗感が減った	かなり少なくなった	5	4	3	2	1	かなり増えた
Q12. 授業以外でも音読やリスニングの練習をした	かなりやった	5	4	3	2	1	まったくやらなかった

アンケート 結果1

アンケート平均(5段階法)

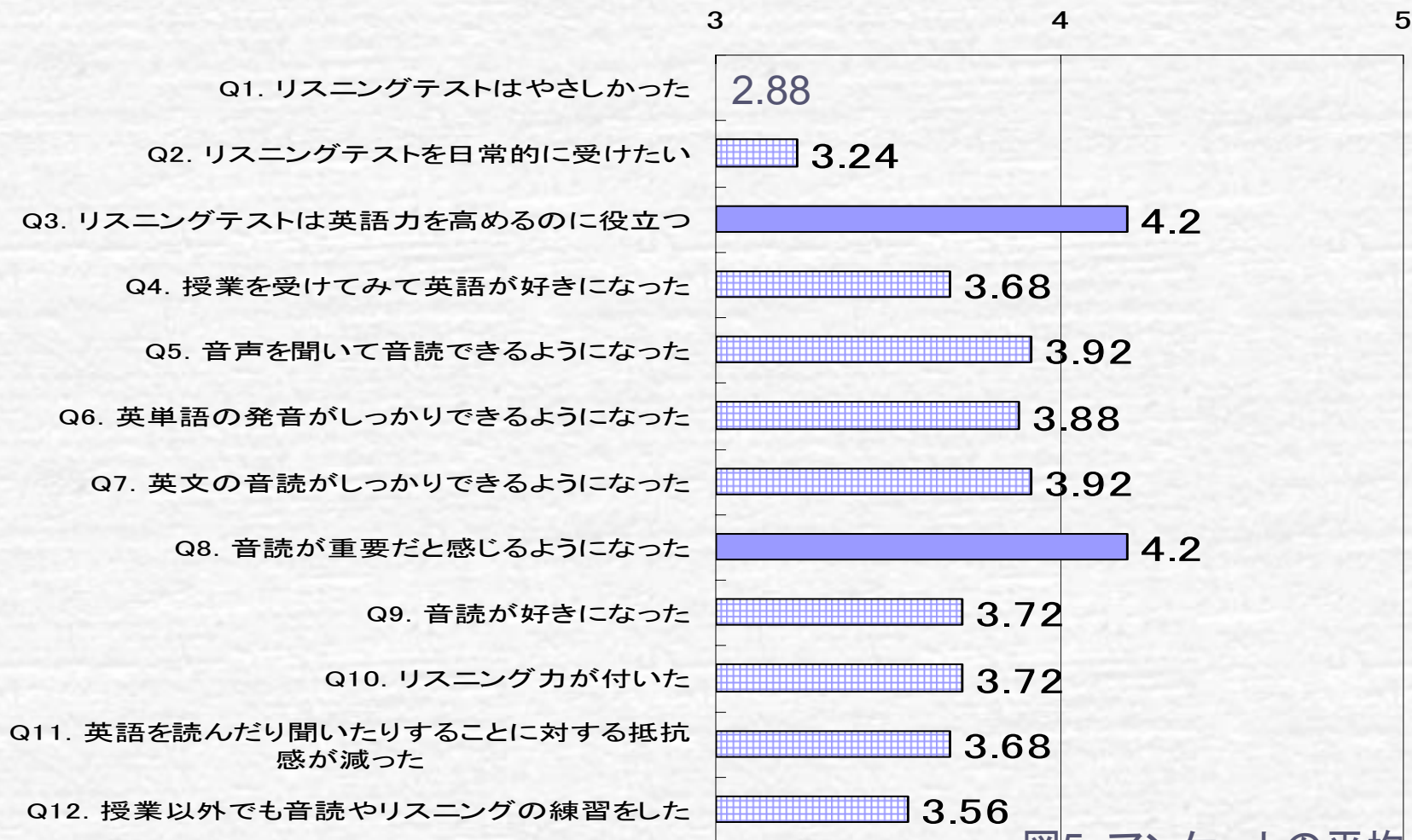


図5. アンケートの平均

アンケートの結果2 項目ごとの相関

表10. アンケート項目相互の相関例

項目	相関係数	項目
リスニングの力が付いた	.657(**)	音読が重要だと感じるようになった
	.746(**)	英語を読んだり聞いたりすることに対する抵抗感が減った
	.828(**)	英単語の発音がしっかりできるようになった
音声を聞いて音読できるようになった	.629(**)	英文の音読がしっかりできるようになった
	.723(**)	音読が重要だと感じるようになった
	.747(**)	リスニングテストは英語力を高めるのに役立つ

**1%水準(両側)で有意

Q1とQ12を除き、その他の質問項目間についても.556~.840(**)と比較的高い相関が認められた。

Q1. リスニングテストはやさしかった

Q12. 授業以外でも音読やリスニングの練習をした

授業外における音読練習の状況

うれしい誤算

- 授業以外でもホームページを使って学習していた(つもりの)学生が存在
→授業のみの効果は測定できず
- 伸びと授業外の学習意識に中程度の正の相関有り
 $r = .464$ * ($p < .05$)

ただし、Q12と他の項目との相関はほとんど認められないため、英語力はもっぱら授業でつけたと学生は考えていると推測。

課題

授業外でも練習したという意識が高いが、スコア上昇には結びついていない学生

下がったか、伸びない学生

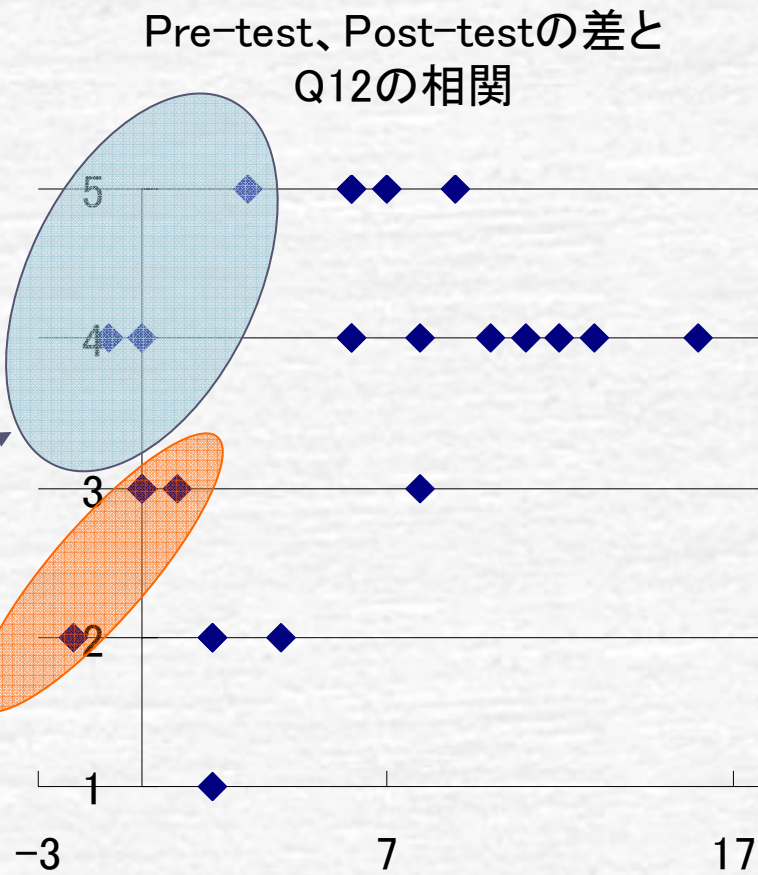


図6 . Pre-Postの得点差と、Q12の相関

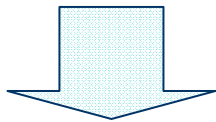
考察

1. 相関の高いアンケート項目
 - ・ 音読に対する重要性を認識した
 - ・ リスニングの力が付いたと実感した
 - ・ 英語に対する抵抗感が減った
2. 下位の学生に音読指導の効果が高かったのは、decoding skillsの習得により、内容理解に集中できるようになったため。
3. リスニングテストに対する苦手意識は残っているが、英語力を高めるためには重要だという認識に至った。
4. 4月から7月までのテストで、リスニングテストについては上位群と下位群の差はほぼ解消された。
5. 得点の伸びた学生は授業外でも勉強したと振り返っているが、英語力の形成はもっぱら授業によるものであるという認識である。

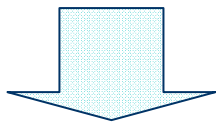
例外的データ ... 自己補正能力

鈴木 (2008) a

上下を繰り返すだけで、ほとんどスコアの伸びが認められない学生



モデル音声を聞くだけでは、正しく再生できない学生



自己補正能力の著しく低い学生の存在

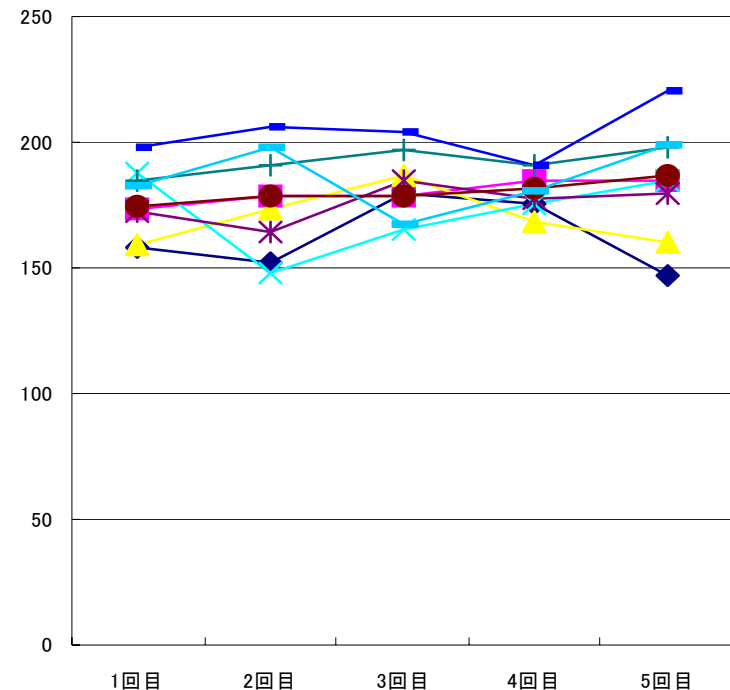


図7. 例外的データ

音読指導が徹底しないのは、学習者の怠惰だけが原因とは限らない

音読能力測定ソフトSpeak!

The screenshot shows the Speak! software interface. At the top, there is a menu bar with options: ファイル(F), ナビゲーション(N), 表示(V), 目標達成プラン(P), オプション(O), ヘルプ(H). Below the menu is the 'Speak!' logo and navigation buttons: スタートページ, ストーリー, and ストーリーレポート. The main content area displays the word 'eiken' and a message: 'あなたの発音とリズムは良いです。' (Your pronunciation and rhythm are good). It also shows '読み終わったテキスト 98%' (Finished text 98%), 'ストーリーを読むのに要した時間: <1分 (望ましい時間: <1分)' (Time taken to read the story: <1 min (Desired time: <1 min)), and 'ストーリーを読むのに要した累計時間 <1分' (Total time taken to read the story: <1 min).

スコア: (重要な単語だけ)
A bar chart shows the score distribution for important words only. The categories are: 2% (黒), 8% (赤), 12% (黄), and 78% (緑). A legend indicates: 緑 良い (Good), 黄 普通 (Average), 赤 悪い (Bad), 黒 不合格 (Failed).

スピード:
A speed graph shows the reading speed over time. The graph is labeled '速い' (Fast) at the top and '遅い' (Slow) at the bottom. The speed line is consistently high, indicating a fast reading rate.

練習が必要な単語
A list of words that need practice: This, system, employees, This.

At the bottom, there is a volume control icon, a progress bar showing 98%, and a level indicator 'レベル: 34'.

Speak! 3.0 の主な特徴



ストーリーを読んで
発音を録音します



自分が読んだ
ストーリーを
聞きます



ストーリーの
英語の手本を
再生します



選んだ単語の
手本が発音されます



選んだ単語の
定義が説明されます

簡単な基本操作の5つ
+オプション機能の組み合わせ

自分のレベルにあった
テキストを作成し自己学習…
小さな達成の積み重ねが
大きな成長につながります。

Speak! の詳しい説明は、
スライドにてご覧ください。
(ウィンドウが開きます)

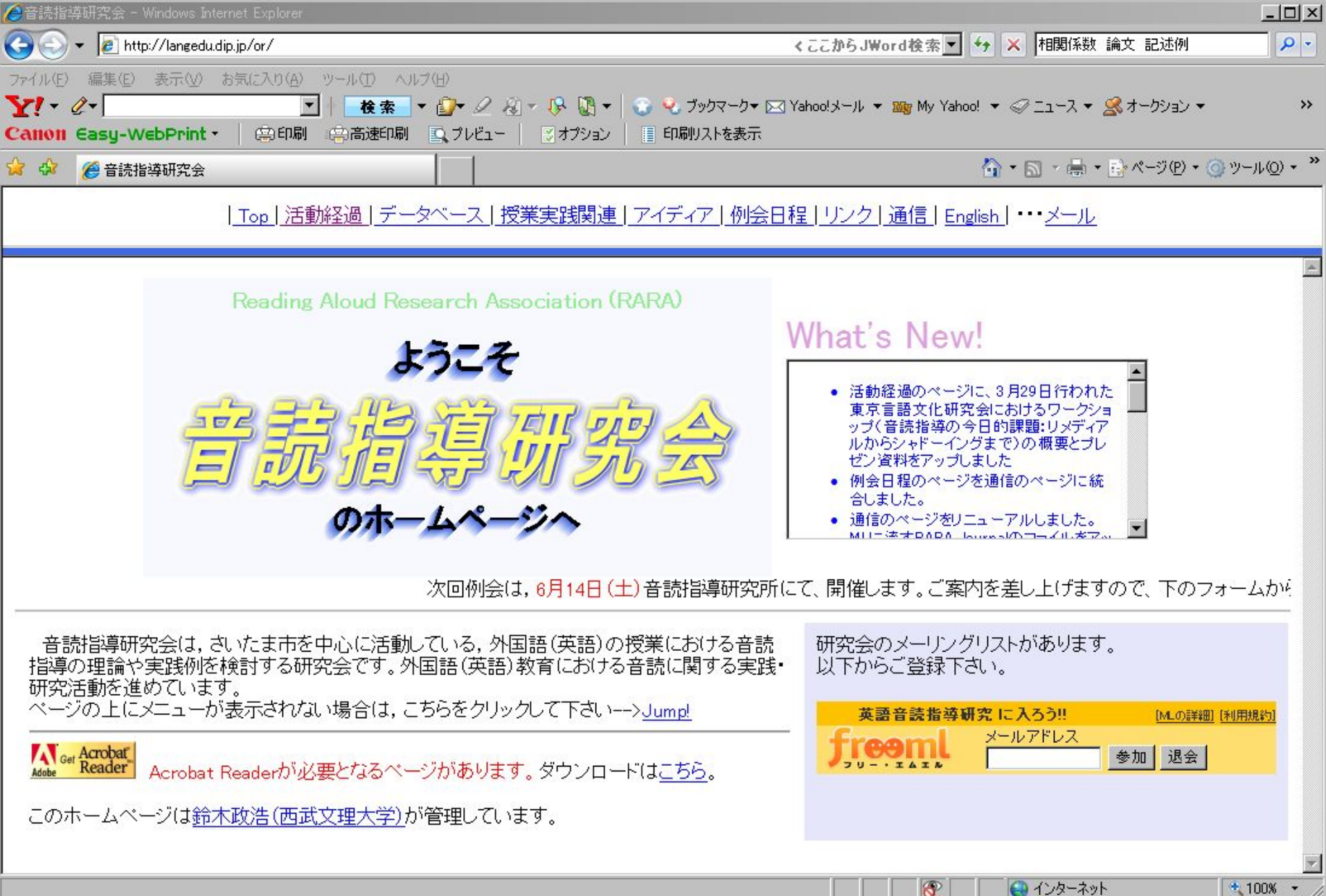
[> 詳しいスライドを見る](#)

Speak!にできること

- どんな英文でも取り込める
- 英文や単語を読み上げてくれる
- 単語の意味を示す辞書機能がある
- 音読を録音し、スコアを出してくれる
- 動画や音声ファイルの取り込み
- リピーティング
- シンプルでわかりやすい操作性

課題

- 教材の難易度を上げるきっかけと指導上の留意点
ごく初期のリメディアル英語教育は、学生のmotivationと教材の難易度との間の微妙なバランスの上に成立する。
3級ができたなら準2級というようにはいかないだろう。
- 上位の被験者を対象にした指導方法の改善
→上位と下位の差がなくなった後のクラス全体の底上げ指導
- 語彙能力の育成と音読指導のリンク



[| Top](#) | [活動経過](#) | [データベース](#) | [授業実践関連](#) | [アイデア](#) | [例会日程](#) | [リンク](#) | [通信](#) | [English](#) | [・・・メール](#)

Reading Aloud Research Association (RARA)

ようこそ 音読指導研究会 のホームページへ

What's New!

- 活動経過のページに、3月29日行われた東京言語文化研究会におけるワークショップ(音読指導の今日的課題:リメディアルからシャドーイングまで)の概要とプレゼン資料をアップしました
- 例会日程のページを通信のページに統合しました。
- 通信のページをリニューアルしました。MLに添ったRARA Journalのファイルを追加

次回例会は、**6月14日(土)**音読指導研究所にて、開催します。ご案内を差し上げますので、下のフォームから

音読指導研究会は、さいたま市を中心に活動している、外国語(英語)の授業における音読指導の理論や実践例を検討する研究会です。外国語(英語)教育における音読に関する実践研究活動を進めています。ページの上にメニューが表示されない場合は、こちらをクリックして下さい→[Jump!](#)

研究会のメーリングリストがあります。以下からご登録下さい。

英語音読指導研究 に入ろう!! [\[MLの詳細\]](#) [\[利用規約\]](#)

freeml メールアドレス

フリー・EMAIL

 Acrobat Readerが必要となるページがあります。ダウンロードは[こちら](#)。

このホームページは鈴木政浩(西武文理大学)が管理しています。

• ホームページURL → <http://langedu.dip.jp/or/>

筆記テストの結果

表8. 筆記テスト記述統計量

N=30		平均点	標準偏差	最低点	最高点
	R1	7.57	3.29	1	16
	R3	13.83	3.17	9	19

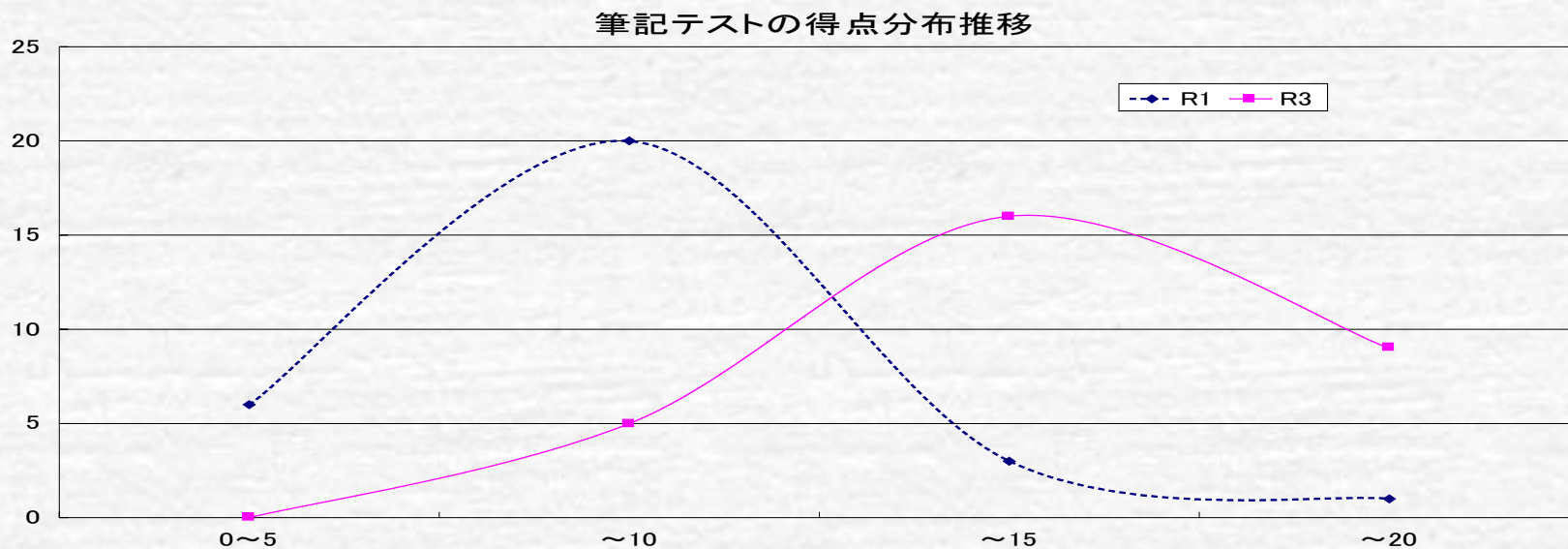


図7. 筆記テストの分布推移

引用文献

- 飯野厚・阿久津仁史・鈴木政浩 (2007) 「音読ソフトを勝つようした音読評価のスコア化: 習熟度との関係および繰り返し音読におけるスコア変化の検証」 KATE Bulletin, 21
- 隈部直光 (1996) 「英語教師心得のすべて」 開拓社
- 鈴木政浩 (2008) a, Interactive, Vol.24, 旺文社
- 鈴木政浩 (2008) b, 「学習意欲と自信の回復を目指す一連の音読指導ー動機づけと集中度をどう維持させたかー」 全国英語教育学会第34回大会口頭発表
- Chomsky, C. (1978). When You Still Can't Read in Third Grade: After Decoding What? In S.J. Samuels (Ed.), What Research Has to Say about Reading Instruction Newark, DE: International Reading Association.
- Neville, M. H., & A. K. Pugh (1972) Reading While Listening: The Value of Teacher Involvement. ELT Journal, XXXIII(1).
- Samuels, S. J. (2002). Reading Fluency: Its Development and Assessment. In S.J. Samuels (Ed.), What Research Has to Say about Reading. Newark, DE: International Reading Association.
- Samuels, S. J., Laberge, D., & Bremer, C. (1978). Units of Word Recognition: Evidence for Developmental Changes. *Journal of Verbal Learning and Verbal Behavior*, 17, 715-720.
- Stahl, S., Heuback, K., & Cramond, B. (1997). Fluency-oriented reading instruction (Reading Research Report No. 97). Athens, GA: National Reading Research Center.
- Stanovich, K. (1986). Matthew Effects in Reading: Some Consequences of Individual Differences in the Acquisition of Literacy. *Reading Research Quarterly*, 1, 360-407.